

冠大会で雄姿、コラソン躍動



11月16日から17日にかけて、榎山サッカー協会（熊野主税会長）が主催する『2019コパコソフットサル大会』が上ノ国町スポーツセンターと上ノ国小学校体育館にて開催されました。本大会は、渡島檜山管内のチームが多数参加する大規模な大会であり、本町と江差町の子ども達も所属する『コラソンKEFC』は予選を全勝で突破、翌日の決勝トーナメントでは第1試合で強豪『函館サッカースクール』を接戦の末に制したものの、準々決勝にて今大会の優勝チーム『アスルクラロ函館』に惜しくも敗れました。今大会について、濱塚監督からは、『日頃の練習の成果が表れ、光るプレーが随所にあり、得るものが大きい大会となった。1月には全道大会も控えているので、より一層練習に励みたい』との言葉があり、チーム全員が次を見据えている様子でした。

ふるさと活性化へ、若者の視点



11月15日、ふるさと高校生議会在役協議場で開催され、上ノ国高校2年生7名が町政について質問に立ちました。この取り組みは、まちの将来を担う若者が町政への提案を通じて、郷土に関心や愛着を持ち、まちづくりに参加してもらおうと行っているものです。今回、議員役として議場に立った7人の生徒たちは、『人口減少対策』や『教育の充実化』、『ラウンドアバウトへの対応』など6項目の質問を行い、実際の議会運営と同様、町長と職員がこれに回答しました。これらの質問は、生徒全員で考えたものであり、将来、上ノ国町のこれからを背負って立つ若者が、まちの課題について真剣に向き合うきっかけとなった様子でした。

高齢者スポーツ大会



10月17日、上ノ国町老人クラブ連合会（三浦安則会長）主催による『第41回高齢者スポーツ大会』が上ノ国町スポーツセンターにて開催され、216名が参加しました。毎年、高齢者同士の交流と健康増進を目的に開催されているこの大会ですが、各地区ごとの対抗戦ということもあって熱い声援が飛び交い、全ての参加者が他の地区に負けじと全力で競い合っていました。競技は、恒例の円盤的当てやパン食い競争、紅白玉入れなどが行われ、湯ノ岱地区が総合優勝を飾りましたが、参加者は時に真剣に、時には笑顔で交流を深めている姿が印象的でした。

大人も子供も仮装楽しむ



10月26日、今年で3回目の開催となるハロウィンパレードが実施され、200名が参加しました。町内はもちろん、近隣町からも参加の申し込みが相次ぐ本イベントですが、今年は募集期間途中で定員に達するほど町内外にも浸透しており、子ども達が町を練り歩く様子は、秋の風物詩として定着しています。パレードでは、工夫を凝らしたアニメや映画の手作り衣装に身を包んだ人達が大留地区を中心に約1.7kmを練り歩きました。パレードでお菓子を貰うとき、子ども達は『トリックオアトリート』という言葉の口にはしますが、これは『いたずら（トリック）』か『おもてなし（トリート）』という意味であり、可愛いお化け達はお菓子や『お菓子をくれないお化け達しちやうぞ』と訪れる飲食店や各事業所で口々に唱え、お菓子をもらっていました。